

あいち・なごや 生物多様性 ベストプラクティス

概要版



あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスについて

愛知目標達成に向けた生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取組を総括し、さらなる取組促進につなげるため、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）以降に愛知県内で行われた事例を募集しました。

選定委員会の審査により、特に優れた事例を「ベストプラクティス」として、優れた事例を「グッドプラクティス」として選定しました。

- 【募集期間】 2019年12月18日～2020年4月16日
- 【募集対象】 次のいずれかに該当する取組事例のうち、愛知県内において2011年以降に行われたもの。
 - (1) 生物多様性の保全
 - (2) 生物多様性の持続可能な利用
 - (3) その他（普及啓発、学習、教育等）の取組
- 【応募総数】 160件
- 【選定結果】 ベストプラクティス 20件
グッドプラクティス 123件

講評（あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス選定委員会 委員長 武田 穰）

COP10以降の10年間で生物多様性の保全や持続可能な利用に関する新しい取組が多く生まれたことは大変喜ばしく、市民団体をはじめ企業、教育機関、行政などの各主体において生物多様性に関する取組がしっかりと根づいてきていると強く感じました。

応募事例はいずれも素晴らしい内容であり、日ごろの地道な取組には頭が下がるばかりで審査には大いに悩みましたが、他の活動団体や住民とつながりを持ち活動の輪を広げているか、新しい仕組みを作り出しているか、環境以外の他分野の課題解決にも貢献しているかなどの点について特に評価し、選定しました。

「自然と共生する社会」を実現するためには、周辺の各種団体と協働した取組や自治体の枠を越えた共同作業等を行うことが必要です。個々の問題では団体間で意見が異なることもありますが、小異を捨てて大同に付く精神で、一緒に活動をすることで、見えてくるものも多いと思います。皆様の活動がより活性化し、あいち・なごやから日本及び世界に波及することを期待しております。

ベストプラクティス選定事例の実施団体一覧（20件）

（五十音順）

愛知県立愛知商業高等学校ユネスコクラブ	3
愛知製鋼株式会社	3
豊田市立五ヶ丘東小学校	3
命をつなぐ PROJECT	4
特定非営利活動法人 表浜ネットワーク	4
株式会社加藤建設	4
環境ボランティアサークル 亀の子隊	5
株式会社三五（グッドプラクティス2件を含む）	5
島を美しくつくる会	5
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社 幸田サイト	6
トヨタ車体株式会社	6
豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会	6
なごや生物多様性保全活動協議会	7
愛知県立南陽高等学校	7
ネイチャークラブ東海	7
チーム YMO（(公財)名古屋みどりの協会、(株)山田組、(株)オオバ）	8
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会	8
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会（グッドプラクティス2件を含む）	8
山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ	9
株式会社山田組（グッドプラクティス1件を含む）	9

グッドプラクティス選定事例の実施団体一覧 (123件)

(五十音順)

特定非営利活動法人 アースワーカーエナジー
アイシン精機株式会社
あいちエコヤギネットワーク
あいち海上の森フォーラム実行委員会
特定非営利活動法人 愛知環境カウンセラー協会
愛知大学 地域政策学部 学生地域貢献事業団体「森の子」
愛知守山自然の会
特定非営利活動法人 愛猫
特定非営利活動法人 渥美半島ハイキングクラブ
家下川リバーキーパーズ
犬山市立池野小学校
石原林道協議会
一宮平成ホテルの会
特定非営利活動法人 犬山里山学研究所
岩倉市
岩崎里山の会
ウッドフレンズ共同企業体
榎前環境保全会
大高竹の会 (2件)
岡崎市 (2件)
おかざき湿地保護の会
乙北ため池クリーンの会
尾張サンショウウオ研究会
一般社団法人 ガールスカウト愛知県連盟
角文株式会社
かすがい里山自然楽校
春日井市
春日井市少年自然の家
刈谷環境支援員の会
環境学習ネットワークグループ
間伐こもれび会
愛知県立木曾川高等学校 総合実務部
清田地域環境保全会・免々田川を守る会
特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海
鞍掛山麓千枚田保存会
劇団シンデレラ (2件)
幸田町
江南市環境課
さがらの森もりクラブ
サギと高速道路の共生を考える会
愛知県立佐屋高等学校 生物生産科 作物研修班
新城市 (鳳来寺山自然科学博物館)
森林インストラクター会“愛”
親林会
積水ハウス株式会社 中部第一営業本部
瀬竹会
瀬戸市 (2件)
瀬戸橋の会
佐布里の里山を美しくする会
豊田市立滝脇小学校
ちごりんの里山
中日森友隊
中日精工株式会社
中部大学 応用生物学部南基泰研究室
愛知県立知立東高等学校 自然科学部
特定非営利活動法人 てほへ

株式会社デンソー
特定非営利活動法人 土岐川・庄内川サポートセンター
戸田建設株式会社 名古屋支店
特定非営利活動法人 富岡まちづくり協議会
豊明エコキッズ
豊川市赤塚山公園
豊田合成株式会社
豊田市自然観察の森
トヨタ自動車株式会社
トヨタ自動車株式会社 上郷工場
トヨタ自動車株式会社 衣浦工場
トヨタ自動車株式会社 堤工場
トヨタ自動車株式会社 貞宝工場
とよた下山林業応援隊
株式会社豊田自動織機 (2件)
豊橋市
豊橋市自然史博物館
トヨフジ海運株式会社
中志段味の自然を次世代に伝える会
長篠開発委員会
なごや外来種を考える会 (2件)
特定非営利活動法人 名古屋シティ・フォレスター倶楽部
なごやの生き物調査の会
特定非営利活動法人 なごや東山の森づくりの会
西沢川森づくりの会
西三河野鳥の会
日本スパルティナ防除ネットワーク
一般社団法人 日本土壌肥料学会中部支部
一般社団法人 日本ボーイスカウト愛知県連盟
日本野鳥の会 愛知県支部
公益財団法人 日本野鳥の会豊田グループ (2件)
日本ワシタカ研究センター
人間環境大学生物クラブ
東浦町
春日井市立東高森台小学校
富士文化幼稚園
二村山豊かな里山づくりの会
ブラザー工業株式会社
ふるさとの自然を愛するスズサイコの会
碧南市
三河湾環境チャレンジ実行委員会
三菱電機株式会社名古屋製作所
農業生産法人みどりの里
特定非営利活動法人みよしの自然環境を守る会
名城大学附属高等学校 自然科学部
守山リス研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
矢作川感謝祭実行委員会
矢作川水族館
山法師の会
横浜ゴム株式会社 新城工場
リンナイ株式会社
渡し場かもめ会
F Mいちのみや株式会社
Longhill Net

ベストプラクティス

愛知商業高校ユネスコクラブ (名古屋市)

ミツバチと創る持続可能な地域と未来～未来へつながる10年の軌跡とこれからの歩み～

校舎の屋上で養蜂活動を行い、ミツバチを核に自然と共生する持続可能なまちづくりに取り組んでいます。採れたはちみつは日本庭園「徳川園」を主な蜜源としていることから、「徳川はちみつ」と名付け、社会貢献型商品の開発に活用しています。地元企業と共同で開発した、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市のりんごと組み合わせたアイスクリームは、売上の一部が被災地に寄付される仕組みを取り入れており、販売から5年後には累計販売個数が10万個、総寄付額が80万円を超えました。ほかにもエシカルな消費行動へのきっかけを提供する等、様々な取組を企画・実践しています。



取組キーワード

- 生物多様性に配慮した製品
- 地産地消
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献
- 協働



市長表敬訪問の様子

愛知製鋼株式会社 (中新田緑地 (東海市東海町))

つなぐ・つながる・大きく広がる愛知製鋼の生物多様性保全活動

2006年からNPO法人などと連携し、森林整備活動を開始しました。2013年には自社緑地(中新田緑地)の整備活動を開始し、知多半島を代表する自然生態圏・第二の里山を目指し、草地環境の保全、植樹、水田、水辺のビオトープ、いきものマウンドの整備などを行いました。当社の連携活動は、さまざまな団体と協力して行っています。地域向けには、中新田緑地を開放して地域子ども達と家族が学べる場を提供しています。また、学生との連携活動では、「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」と連携し、知多半島地域の緑地での整備活動を毎年計画的に行っています。



取組キーワード

- 森林
- 里山
- ふれあい活動の場の整備
- 環境教育・普及啓発
- 協働



中新田緑地自然共生イベント

豊田市立五ヶ丘東小学校 (豊田市立五ヶ丘東小学校 (豊田市五ヶ丘))

自然と人とが共生するふるさと“五東の里”をつくろう

自然の大切さ、生きものの命の尊さについて考え、またかつての自然を取り戻し、地域にいた生きものを呼び戻すため、2005年に校内にビオトープを造成しました。

学校ビオトープを基盤にした学習や活動を教育課程に位置付けており、総合的な学習では、3～6年生のすべての学年でビオトープを活用した学習が行えるように、年間の学習計画が作成されています。

また、ビオトープ管理マニュアルを作成し、地元環境NPOから指導と助言を得ながら、児童、教職員、保護者、地域が協力してビオトープの維持管理を行っています。



取組キーワード

- 野生生物の保護
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献
- 協働



地域の方を招いての観察会

命をつなぐ PROJECT (知多半島 等)

命をつなぐ PROJECT

知多半島臨海部には、全長 10km にわたる企業の広大な森が広がっており、2011 年に“企業の緑がつなぐ、地域の絆と生態系”をテーマに当活動を開始しました。当プロジェクトは行政・企業・NPO・学生・専門家など、多くの主体で構成されており、知多半島の緑地を地域共有の宝として捉え、生物多様性保全をネットワーク化する役割を担っています。活動の中では、動物の生息圏拡大のため、アニマルパスウェイ（動物の通り道）を新設や、ビオトープ整備を行いました。「生態系ネットワーク向上」「次世代の担い手育成」に向け、企業関係者のみならず、地域全体に生物多様性の概念を普及啓発しています。



取組キーワード

- 森林
- 里山
- 野生生物の保護
- 外来種対策
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献
- 協働



アニマルパスウェイ

特定非営利活動法人表浜ネットワーク (表浜海岸 (豊橋市小島町 等))

愛知県のウミガメ産卵地保全活動「ウミガメの為に砂浜づくり」

表浜海岸は伊良湖岬から浜名湖までの遠州灘海岸であり、ウミガメの繁殖地としても重要な海岸です。当会では、2000 年初頭から表浜海岸のウミガメ調査を開始し、産卵行動を確認してきました。

砂浜再生プロジェクトでは、海岸に自生するメダケを使った堆砂垣と呼ぶフェンスをボランティアによって砂浜に設置しています。季節風で飛ばされる砂を受け止めることにより、赤羽根海岸などでは砂浜が再生しました。また、ウミガメや漂着物に関する環境講座を地元の各学校や表浜館で、小中学生や一般の方を対象に行っています。



取組キーワード

- 海岸
- 野生生物の保護
- 環境教育・普及啓発
- 協働



たいさぎき
堆砂垣づくり

株式会社加藤建設 (県内はじめ、全国の工事現場)

エコミーティング～建設業から見た生物多様性保全～

「環境破壊」という建設業の負のイメージを払拭し、自然との共生社会の実現を目指す「エコミーティング」活動を 2009 年から開始しました。

エコミーティングとは、①自然環境配慮、②住民環境配慮、③コミュニティーづくりの 3つのポイントで、受注した工事現場においてどのような配慮・工夫ができるかを、工事担当者だけでなく営業、事務、技術社員も含めた多様な視点で検討するもので、工事現場の生態調査、環境掲示板を用いた啓発、在来種の保護、外来種の駆除、設計変更による生物多様性への配慮(自然再生、希少種保護)などを行っています。



取組キーワード

- 野生生物の保護
- 外来種対策
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献
- 協働



エコミーティング (現場視察)

環境ボランティアサークル亀の子隊（渥美半島（田原市））

きれいな海を守る心を広げるためのプロジェクト

1998年に地元の小学生たちが渥美半島にある西の浜のごみの多さに驚き、ごみ拾い集めを開始しました。この活動の趣旨を明確にするため、1999年に当会を設立しました。

西の浜クリーンアップ活動は、会のメンバーに加えて企業の従業員も参加し、毎月1回のペースで行っています。また、「海の環境を学ぶ会」として、スナメリ観察、磯遊び、スノーケリング、タッチングプール、海水からの塩づくり、水族館見学、干潟観察、培漁業センター見学など、各回テーマを決めて学習活動を行い、きれいな海を守りたいという心を広げています。



クリーンアップ活動

取組キーワード

海岸

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働

株式会社三五（名古屋市 等）

森と水辺の生態系保全～自然と共生する企業を目指す株式会社三五～

企業の基本理念に「環境づくり」を掲げ、35万本の植樹を目指した森づくりを国内外の工場を中心に展開しています。また、名古屋の中心にあった工場の跡地を土壌汚染の浄化を経て自然共生の拠点とし、ECO35と名付け、森づくり及び調整池を活用したビオトープの創出を行いました。同様の活動をみよし市の八和田山工場でも行っており、この工場では希少種を保全しています。

さらにECO35では、近隣の小学生を招いた環境学習会を、みよし市では、地元住民、行政及び同種企業と特定外来生物のオオキンケイギクの駆除活動を行っています。



ECO35の森とビオトープ

取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

協働

島を美しくつくる会（西尾市一色町佐久島）

藻場の再生（アマモの移植活動）

多くの生きものを育むアマモの群落を増やし、佐久島周辺の自然環境を取り戻し、豊かな海を取り戻すことが目的です。

「アマモが少なくなっている」という漁師の言葉を聞いた一人の中学生から活動が芽生え、2004年から当会も応援を始めました。アマモの移植ボランティア活動は、島に残された天然のアマモ場から浅瀬に株を移植してアマモ場の拡大を図る活動で、毎年6月頃に島外のボランティアも参加して行っています。また、鉄の枠に麻のマットを挟んだ植栽マットの活用による実生移植活動を、島の中学生が中心となって行っています。



藻場から株を採取

取組キーワード

里山

海岸

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイト (ソニーの森 (額田郡幸田町))

企業緑地の再生と緑地を活用した貢献活動

隣接する森を「ソニーの森」と名づけ、地域とともに活動しています。2008年から開始したフクロウの棲む森づくり活動では、毎月、社員ボランティアで森づくりを行っており、2016年にはフクロウのヒナが誕生しました。

2011年からは在来種の苗木づくり活動を開始しました。1年目はドングリを拾って発芽させ、2年目で近隣の子どもたちに苗木を渡し、子どもたちが1年間かけて育てるという里親制度により、植林後も愛着を持ってもらい、継続的に里山づくりを行っています。



ソニーの森の説明

取組キーワード

- 森林
- 里山
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献
- 協働

トヨタ車体株式会社 (トヨタ車体 刈谷 ふれ愛パーク (刈谷市東境町))

ふれ愛パークを拠点とした産官学民の連携による地域に根付く生物多様性保全活動

刈谷北部の生態系ネットワーク形成の拠点づくりを目指し、2014年に、雑木林、鎮守の森、果樹園、田畑等を兼ね備えたビオトープである「ふれ愛パーク」をオープンしました。

ふれ愛パークづくりは、場づくり、人づくり、組織づくりの3本柱で行っています。場づくりは、ビオトープの成長段階ごとに地域から呼び込む生きものを数値目標として定め、順応的な管理を行っています。人づくりでは、ビオトープを活用し、従業員や地域の子どもたちに環境教育を行っています。組織づくりでは、「地域の皆さまのふれ愛パーク」として、地域の方々に愛され続けるふれ愛パークを目指して活動しています。



ふれ愛パーク ビオトープ

取組キーワード

- 里山
- 外来種対策
- ふれあい活動の場の整理
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献
- 協働

豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会 (葦毛湿原 等)

葦毛湿原大規模植生回復作業

植生遷移が進み多くの植物が姿を消した葦毛湿原で、2013年から大規模植生回復作業を開始しました。

土壌シードバンクに眠っている埋土種子を発芽させ、湿地再生や減少した湿性植物の増加を目指して、湿原とその周辺環境の多様性の復元に取り組んでいます。14種の植物が埋土種子などにより復活し、湿性植物の開花数も顕著に増加しています。実際の作業では、豊橋市教育委員会の指導のもと、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会など、毎年延べ500名以上のボランティアも協力し、作業を行っています。



植生回復作業

取組キーワード

- 里山
- 湿地
- 野生生物の保護
- 外来種対策
- 環境教育・普及啓発
- 協働

なごや生物多様性保全活動協議会（名古屋市）

なごやの生物多様性保全活動

協議会では5つの部会を設置して活動しており、名古屋に生育・生息する生物と環境を継続的に調査し、現状を把握するとともに、外来種防除などを通し身近な自然の保全を実践しています。

市民協働での「なごや生きもの一斉調査」では、毎年対象の種と調査機関を定めて名古屋市内の公園・緑地等40か所程度で市民参加の調査を行い、市内の生物多様性の状況を明らかにしています。毎年多くの市民の方に参加頂いていることで、市内初となる種が見つかるなど、大きな成果を挙げています。この他、ため池の池干しやアカミミガメの防除等、様々な取組を行っています。

取組キーワード

- 森林
- 里山
- 河川
- 湖沼
- 湿地
- 公園
- 野生生物の保護
- 外来種対策
- 環境教育・普及啓発
- 協働



なごや生きもの一斉調査

愛知県立南陽高等学校（名古屋市 等）

生物多様性保全を目指した地域と社会に貢献するSDGsの取組～フェアトレード、カーボン・オフセット、COOL CHOICEを活用した実践～

地域や企業を巻き込んで、買い物という身近な消費行動からSDGsの達成に貢献する取組を行っています。まず、本校近隣の藤前干潟と渡り鳥で繋がるフィリピンの地域住民の手芸品を販売し、その収益金の一部はマングローブ植林活動に寄付する仕組みで、これまで1,270本の植林につながり、干潟の生物多様性の保全に貢献しています。地元企業と協働で、フェアトレードのコーヒーやお菓子などの商品を開発、商品を作る間に出る二酸化炭素は木曾川上流の植林などにお金を支払うことでオフセットする仕組みとし、イベントなどで販売するとともに、活動の普及啓発を行っています。

取組キーワード

- 生物多様性に配慮した製品
- 地産地消
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献
- 協働



商品販売・啓発

ネイチャークラブ東海（愛・地球博記念公園内（長久手市））

絶滅危惧種「ギフチョウ」の保全保護活動（環境学習プログラムとして）

愛・地球博記念公園における愛知県の「森林再生プロジェクト」事業を継続実施するために当団体を立ち上げました。

「幼児期における自然体験」を主なテーマとして、ギフチョウの保護、シラタマ湿地の再生、ハルゼミの保全活動などを、小学生親子と一般県民の方々の参加を得ながら実施しており、ギフチョウの産卵数の増加や湿地へのハッチョウトンボの飛来などを確認しています。単に生きものを守る活動ではなく、環境や自然を守る人を育てる活動を目指しています。

取組キーワード

- 森林
- 里山
- 湿地
- 野生生物の保護
- 環境教育・普及啓発



現地の状況確認

チーム YMO (公財) 名古屋市みどりの協会、(株)山田組、(株)オオバ (名古屋市)

農とみどりのわくわくマイパーク～農業文化園・戸田川緑地における里山的自然空間の保全とそれを活用した環境学習プログラムの実施～

名古屋市南西部にある公園「農業文化園・戸田川緑地」は、都会の里山的自然空間として「農とみどりのわくわくマイパーク」という目標像を掲げ、多様な主体の連携により在来種保護や親子参加の稲作体験、ビオトープ管理士の研修の場の提供、自然観察会等の実施など環境教育に関する数多くの講座を年間延べ 200 回以上行っています。

また、市民・企業・行政の協働による「なごや西の森づくり」事業によって整備された「とだがわの森」は、植樹がはじまって 20 年目を迎え、様々な生きものが生息する生物多様性に富んだ森に育ちました。



取組キーワード

- 里山
- 公園
- 農地
- 環境教育・普及啓発
- 協働



田んぼ体験しよう！～昔ながら農具を使って

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 (名古屋市 等)

藤前干潟クリーン大作戦・流域交流と「ごみと水を考える集い」

藤前干潟は、市民活動により 2002 年にラムサール条約登録湿地となりましたが、当時その岸边は家電、自転車、ペットボトル等、流域からの生活ごみでおおわれていました。

そこで 2004 年に土岐川・庄内川流域で活動している 4 市民団体が実行委員会を結成し、第 1 回藤前干潟クリーン大作戦を実施しました。約 16 年で合計 31 回開催し、地元自治会、企業、行政等延べ参加人数 37,770 人、集めたごみは 45 リットルのごみ袋合計 46,082 袋になります。また、漂着ごみの生まれない流域を目指したイベントである「ごみと水を考える集い」を開催し、情報交換等を行っています。



取組キーワード

- 河川
- 海岸
- 環境教育・普及啓発
- 協働
- その他
河川・干潟美化活動
上下流交流等流域交流



藤前干潟クリーン大作戦

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会 (名古屋市)

藤前干潟の保全活動

1984 年、名古屋市の廃棄物最終処分場のための庄内川河口の「西一区」の藤前干潟埋立計画に対し、渡り鳥の重要な中継地であり、多様な生物の生息地であることから保全活動を始めました。

干潟観察会、シンポジウム等の開催、メディアを通じた啓発活動など全国、さらには国際的な世論とも協力しながら保全に向けての機運を高めました。特に、生物調査で水質浄化力の大きさが確認できたことは干潟保全の実現のうえで大きな役割を果たしました。

現在は、生物の減少等の課題への取組の継続、藤前干潟の案内人養成事業、次世代への継承のためのプログラムを実施しています。



取組キーワード

- 河川
- 湿地
- 海岸
- 野生生物の保護
- 環境教育・普及啓発



干潟での観察会

山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ（名古屋市 等）

地域の子どもたちによる昔の様子聞き取り調査

近年の温暖化等の環境の変化により、生物の生息状況が変化し、地域によってはすでに見られなくなった生きものも多くなります。山崎川や身近な海にいる絶滅してしまった生きものについては証拠となる写真等の科学的証拠がないものがほとんどですが、地元の子どもたちがお年寄りから聞き取りをするという手法で、今ではいなくなってしまう貴重な生きものとその生きものにまつわる情報を集めました。

とりまとめた情報を「山崎川いま・むかし」、「大井・片名いまむかし」として冊子に取りまとめ、セミナーで発表を行うとともに、冊子を配布しました。



取組キーワード

河川

海岸

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



聞き取りの様子

株式会社山田組（名古屋市）

東谷山・天空のアグリパークにおける生物多様性を重視した環境保全型農業の実践と都市農業とふれあえる場の創出

東谷山のふもとで生物多様性豊かな土地にある「天空のアグリパーク」において、生物多様性を重視した環境保全型農業の実践と都市農業とふれあえる場を創出し、継続的に活動しています。化学肥料等をできるだけ使用せず、物理的、生物的な防除対策を組み合わせるIPM（総合防除）の手法によりブルーベリーや梅などの果樹を中心とした農産物の生産を行っています。また、廃棄されるコーヒー粕を使用した有機肥料の開発研究や地域住民向けの自然環境を守るために自分たちができる行動を考えるイベント、障害者の就労体験の受入、都市住民への農や自然体験の機会の提供などを行っています。



取組キーワード

農地

ふれあい活動の場の整備

生物多様性に配慮した製品

地産地消

環境教育・普及啓発



梅の収穫体験

愛知県の取組 ～「人と自然が共生するあいち」の実現を目指して～

2010年に愛知・名古屋で開催されたCOP10で採択された愛知目標^{*1}の達成に向けて、「人と自然が共生するあいち」の実現を目指すため、2013年3月に「あいち生物多様性戦略2020」を策定しました。この戦略に基づき、本県独自の取組である「あいち方式」^{*2}により、企業や大学、NPO、行政など多様な主体が連携し、9地域で生態系ネットワーク協議会が設立され、生物多様性保全に取り組んできました。

また、希少な野生動植物の保全や外来種対策、自然公園の利用促進による自然との触れ合いの促進、世界への情報発信などを行っています。

※1 COP10で採択された「生物多様性戦略計画2010-2020」の中で取り組むとされた20の個別目標

※2 多様な主体が協働して、生態系ネットワークの形成を進め、「人と自然が共生するあいち」を実現する仕組み

生態系ネットワーク協議会の活動

各協議会では、地域の特性に応じたテーマを設定し、地域の生態系ネットワークの形成に向けて、様々な主体がコラボレーション（協働）することで、生きものの生息生育空間の保全・創出に資する様々な取組を進めてきました。



鳥と生きもの ふれあい学習会

自然公園における取組

愛知県内には、4つの国定公園と7つの県立自然公園が指定されています。自然と親しむことで、人々の保健や休養に資するとともに、自然保護に対する認識を深めることを目的として、県は東海自然歩道の整備や自然公園施設を設置しています。



いらごさららパーク（伊良湖休暇村公園施設）

外来種対策

外来種情報について、「愛知県移入種対策ハンドブック」やwebページなどで発信しています。また、市町村に専門家を派遣するなど、外来種防除対策を支援しています。オオキンケイギクについては、駆除キャンペーンを実施しています。



オオキンケイギク

国際先進広域自治体連合 (GoLS) における取組

生物多様性保全に先進的に取り組む世界のサブナショナル政府（州・県レベルの広域自治体）とともに、愛知県が主導して2016年に「国際先進広域自治体連合 (GoLS)」を立ち上げ、国際連携と世界の自治体の取組活性化に力を注いできました。



COP13 国際自治体会議にて（メキシコ・カンクン）

名古屋市の取組 ～「多様な生物と生態系に支えられた豊かな暮らしが持続していく都市なごや」のために～

身近な自然の保全・再生

名古屋市では、COP10 をきっかけにより活発になった身近な自然を守り育てる市民の活動を継続・発展していくための拠点として、2011年9月に「なごや生物多様性センター」を設立しました。

センターでは、なごや生物多様性保全活動協議会をはじめNPO、専門家等と協働して、生物調査や外来種防除等の保全活動を行い、得られた情報から、市内の野生生物を絶滅の危険性の程度に応じてランク付けした名古屋市版レッドリストを作成しているほか、ポータルサイト「なごや生きものライブラリー」で、生きもの情報を市民に分かりやすく発信しています。



池干し



市民協働による調査

生活スタイルの転換

生物多様性に配慮した生活への転換を図るため、「なごや環境大学」「環境デーなごや」において、市民団体の方々が中心となり、生物多様性の大切さを伝える様々な講座や情報発信が活発に行われています。

また、名古屋市は2015年に国内2番目の「フェアトレードタウン」に認定され、「地球とのフェアトレード」を合言葉に、地産地消・地域活性化など、地域に、そして地球に対してフェアであることも目指し、まちぐるみで取組を行っています。



環境デーなごや

流域圏の連携・交流

木曽ヒノキなど森林資源の宝庫である木曽・裏木曽地方は、かつて尾張徳川藩の直轄地であったことから本市と交流が盛んに行われてきました。また、木曽の人々によって守られてきた森林には、現在は樹齢300年以上の木が数多く育っています。

名古屋城本丸御殿の復元には、貴重な木曽ヒノキを大量に使用するため、豊かな自然が未来へと続くよう、また木曽に住む人たちとの交流を深めるため、2008年から「名古屋市民の森づくり」事業を実施し、2017年には植樹本数1万本を達成しました。本丸御殿の完成公開を受け、2019年からは育樹等を中心とした事業を実施しています。



市民の森づくり

あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス

発行年月 2020年10月
編集発行 愛知県環境局環境政策部自然環境課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-954-6475
名古屋環境局環境企画部環境企画課
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-2698

